

【目 次】

① 法人本部		
・ 法人本部	・・・	P1 ～ P3
② 老健施設課		
・ 老健ケアセンターゆうわ（2階）	・・・	P4
・ 老健ケアセンターゆうわ（3階）	・・・	P5
・ 老健ケアセンターゆうわ（4階）	・・・	P6
・ ソーシャルコンシェルジュ	・・・	P7
③ 通所リハビリ課		
・ サポートセンタータリア	・・・	P8
・ 通所リハビリ	・・・	P9
・ 訪問リハビリ	・・・	P10
④ 通所介護課		
・ デイサービス	・・・	P11
⑤ ケアハウス事業課		
・ ケアハウス	・・・	P12
⑥ 有料老人ホーム事業課		
・ 有料老人ホームゆうわ マ・メゾン	・・・	P13
・ 訪問介護	・・・	P14
⑦ 在宅サービス課		
・ グループホーム	・・・	P15
・ トータルケア	・・・	P16
⑧ 総合在宅サポートセンター事業課		
・ 看護小規模多機能サンリンク	・・・	P17
・ 住宅型有料老人ホームシエモアゆうわ	・・・	P18
・ 定期巡回訪問サービス	・・・	P19
・ 訪問看護	・・・	P20
・ ゆうわケアプランセンター	・・・	P21
・ 地域交流スペース	・・・	P22
・ カフェミュールブラン	・・・	P23
⑨ シンシア施設課		
・ シンシア特養	・・・	P24 ～ P25
・ シンシア短期入所生活介護	・・・	P26 ～ P27
⑩ シンシア通所 在宅サービス課		
・ シンシアデイサービスセンター	・・・	P28
・ シンシアタリア	・・・	P29
・ 小規模多機能シンシア	・・・	P30
・ シンシアゆうわ居宅介護支援事業所	・・・	P31
⑪ 栄養管理課	・・・	P32
⑫ 地域包括支援センター南部支所	・・・	P33
⑬ クラブ eスポーツ	・・・	P34

令和4年度 事業計画書

事業所名	法人本部	記入者職氏名	橋本 博行
------	------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 質の高い福祉サービス、ホスピタリティある接遇
2. 人材確保と育成、研修の見直し
3. 財務基盤の安定、新規事業の経営安定化、経費削減
4. 事業継続計画（BCP）の策定
5. 本部機能の充実

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 質の高い福祉サービス、ホスピタリティある接遇
 - 1-1. 法人本部職員の接遇向上
 - 1-1-1. 接遇についての話し合いを通じて、課員自ら考えてアクションを起こす。
 - 1-1-2. 接遇について、360度評価を実施し各自の改善項目をフィードバックする。
 - 2-1. 法人全体の接遇向上
 - 2-1-1. 研修を企画し、より良い接遇が浸透する体制作りを構築する。
 - 2-1-2. レベル評価表1を活用する。（基準を明確にし、達成を徹底する）
 - 2-1-3. 事業所ごとに3か月に1回、自己評価を実施、上長とのレベル評価のすり合わせを行う。
 - 2-1-4. 接遇に問題、改善の見えない職員に対して、法人本部と事業所が協調して指導する。
2. 人材確保と育成、研修の見直し
 - 2-1. トータルな人材マネジメント（採用・配置・昇進等）を構築し、管理運営していく。
 - 2-2. 人材確保に向けた取り組みの強化
 - 2-2-1. ホームページ、インターネットを活用した迅速かつ適切な広報体制をつくる。
 - 2-2-2. 複数社媒体の比較・洗いだし作業（過去実績等）
 - 2-2-3. ハローワーク、マイナビ、じょぶる山口等の多様な媒体を通じて機能的に広報活用し人材の確保を行う。
 - 2-2-4. 退職者の補てんとして、看護師、介護職員、運転手、夜間宿直員、厨房スタッフ等必要数を採用する。
 - 2-2-5. 安定的な人材確保に向け、外国人材（技能実習生等）5名を受け入れる。
 - 2-2-6. 縁故へのアンテナを張り、職員紹介制度の利用を推進していく。
 - 2-2-7. 離職防止に努め、定期的に職員面談を実施し、離職に繋がる事項を掴み課題を解決する。
 - 2-2-8. 施設見学の機会を増やし人材確保に繋げる。
 - 2-2-9. 大学、専門学校、高校との連携、訪問を定期的に行い、人間関係・信頼関係を構築する。
 - 2-3. 人材定着の計画
 - 2-3-1. 離職率目標・・・法人全体の離職率の目標を7%以下とする。
 - 2-3-2. 目標達成に向けて「新任階層」に対して、正規・臨時・パートともに人材育成のサポート体制を強化する。
 - 2-3-3. 有給取得率10日以上目標とする。
 - 2-3-4. 管理職並びに職員に対するハラスメント防止研修を実施する。
 - 2-4. 人材育成のための環境整備
 - 2-4-1. 研修体制の見直しにより職員のスキルアップが図れる体制作りと情報発信を行う。
 - 2-4-2. 認知症介護基礎研修の実施。無資格者の洗い出しを行い、eラーニングを受講させる。
 - 2-4-3. 介護職員初任者研修の前倒し実施。
 - 2-4-4. 実務者研修の継続実施。（内容改訂につき要事前準備）

2-4-5. 全体研修の活性化と参加率のアップ。

御茶ノ水ケアサービス学院のeラーニングを活用して、職員の自己啓発を促す。

2.4.6. 技能実習生の指導者研修

2-5. 人事考課制度の運用

2-5-1. 新人事制度の定着に向けた研修実施。

考課者マニュアルに沿った考課を行うことで人事考課制度を公平・公正に運用する。

2-5-2. 人事考課における自身の振り返りと各事業所の目標の明確化、共有化を図り、個人目標管理表を活用し成長を促す。

2-6. 魅力ある組織作り

2-6-1. 事業所にノー残業デイの設定を行い実施継続する。

2-7. メンタルヘルス対策

2-7-1. 労働安全衛生法に基づきメンタルヘルス対策として、厚生労働省が提示する4つのケアに取り組む。

①セルフケア（労働者自身による対処）②ラインによるケア（管理監督者による対処）③事業場内の産業保健スタッフ等によるケア（産業医、衛生管理者等による対処）、事業場外資源によるケア（外部機関等による支援）とセーフティネット電話相談窓を利用する。教育研修・情報提供「こころの耳」（厚労省）を活用する。

2-7-2. 全職員にストレスチェック診断を実施する。

2-7-3. 相談窓を設置し相談・申し出が行いやすい環境を整備する。

2-8. ハラスメント対策

2-8-1. 令和2年6月からのパワハラ防止法施行に伴い、パワハラ防止に関する周知と啓発及び苦情等に対する相談体制の整備強化を行うとともに、被害を受けた職員へのケアや再発防止に向け、より一層の理解を深めるための研修を実施する。

2-8-2. No!! ハラスメント宣言の周知・徹底。

2-8-3. 一般社団法人日本産業カウンセラー協会、東京海上日動メディカルサービスの専門家によるカウンセリング、研修を受ける体制を整備する。

2-9. 利用者や働きたい人から選ばれる恒和会のブランドを確立する。

2-9-1. 法人理念を実践し、地域から信頼され、頼られる法人としてサービスを提供し積極的な情報発信に取り組む。

2-9-2. 休暇制度や健康管理、メンタルヘルス対策などを充実させ働きやすい職場環境づくりを目指す。

2-9-3. 法人の存在価値を高めることで職員の意識を向上させる。

2-9-4. モチベーションアップに向けた勤続表彰制度を整備する。

3. 財務基盤の安定、新規事業の経営安定化

3-1. 収入と支出状況の把握と管理

3-1-1. 事業所毎に管理会計に基づき、収支予算書通りに運営されているか管理する。

3-1-2. 経営企画会議(月2回開催の後半)において事業所収支状況を把握する。

3-1-3. 企画会議(月2回)を設け各事業所の運営状況について情報共有し、問題がある場合は改善していく。

3-1-4. 予算管理の徹底と会計システムによる財務管理の強化を図る。

3-1-5. 通常予算外の緊急の支出の場合は、理事会承認を得て補正予算を組む。

3-1-6. 事業所の定員や稼働状況を常に分析し、適正な収入確保に向けた取組みを実施する。

3-2. 介護報酬改定に伴う各種加算を取得する。

3-3. 施設の実態にあわせた効率的な雇用形態及び配置管理を行う。

3-3-1 事業所毎の適正人員を把握し、管理していく。

3-4. 納入業者並びに業務委託契約の見直しを行い経費削減に努める。

3-5. 補助金を積極的に活用する。

3-6. 業務効率化およびペーパーレス化のため、ポータルサイトを構築する。

3-7. 経費削減の取り組み

3-7-1. コスト意識を高め経費削減に向けた対策を作成し、法人全体が一体となった取組みを行う。

物を大切に扱う意識を醸成する。物品の必要数量を増加させる場合は、法人本部に事前相談する。

3-7-2. 業務委託契約の単年度ごとの見直しを行い経費削減に努める。

4. 事業継続計画（BCP）の策定

4-1. 自然災害や感染症等発生時に備え、事業継続もしくは早期復旧するために必要な計画・対策を講じる。

4-1-1. BCPマニュアルの作成。①想定されるリスクを書き出す。②リスクに優先順位をつけてBCPを策定する。

③BCPを発動する基準（例えば、震度5強以上発動）の明確化。④どの事業を優先的に復旧させるのか事前に絞り込む。⑤目標復旧時間、目標復旧レベルを設定する。⑥事業を元通りに復旧させるまでの各フェーズの行動を具体的に決定する。（初期対応フェーズ、業務仮再開フェーズ、本格復旧フェーズ）

4-1-2. BCPマニュアルを全従業員に周知させる。必要な教育、訓練を実施する。

4-1-3. 策定後、運用に問題がないか定期的に見直しを行う。

5. 本部機能の充実

- 5-1. 理事会・評議員会が円滑に運営できるよう準備していく。
- 5-2. 事業を取り巻く環境や制度の動向を把握し職員に周知する仕組みを構築する（グループウェアの導入）。
- 5-3. 各種会議に積極的に職員を出席させ情報の収集を図る。
- 5-4. 経営企画会議を充実させ戦略的な討議を重ねるとともに確実な情報共有を進める。
- 5-5. 法改正や制度改正に迅速に対応できるよう情報収集力を高め、法人の現状分析と将来ビジョンを検討する。
- 5-6. 常に各事業所の状況を把握し業務支援体制を整える。
- 5-7. 法人本部を中心とした事務管理体制の強化と業務効率化を図る（グループウェアの導入）。

令和4年度 事業計画書

事業所名	老健2階	記入者職氏名	笠本 典男
------	------	--------	-------

I. 法人事業目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. ホスピタリティある接遇 2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む 3. 新規事業の早期経営安定化 4. サービスの担い手である人材の確保と育成 5. 事業継続計画（BCP）の策定 6. 安定した財務基盤の確立 7. 社会貢献への取り組み 8. 大規模修繕の準備と実施
--

II. 部門目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 超強化型高稼働予算達成への取り組み ・ ホスピタリティのある接遇 ・ 科学的介護の推進 ・ 新規事業の早期経営安定化 ・ 人材定着・育成 ・ BCP ・ 経費節減

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

<p>【超強化型高稼働予算達成への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加算へ向けての取り組み <ul style="list-style-type: none"> ①栄養マネジメント加算、②口腔衛生管理加算、③褥瘡マネジメント加算、④排泄支援加算、⑤自立支援推進加算取得に向け、老健2階で担当職員を決め、部署でチームを設立して、取りこぼしの無いように努める。 <p>【ホスピタリティのある接遇】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常に月1ミーティングの議題としてホスピタリティに対する案を出し、共有していく。 ・ 月目標としてフロアに掲示し意識を高める <p>【科学的介護の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハ職リードでフィードバック内容を共有し活用方法を検討 <p>【新規事業の早期経営安定化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シェモア、看多機への利用推進 ・ 現場から相談員へ候補者のピックアップを共有・事業所間の情報共有 <p>【人材定着・育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別で管理職と一般職との話し合いを設け、問題の早期発見、解決に努める <p>【BCP】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物品、薬品管理 <p>【経費節減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水道光熱費、消耗品など

令和4年度 事業計画書

事業所名	老健3階	記入者職氏名	田房 聡子
------	------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画 (BCP) の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 超強化型高稼働達成への取り組み

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. ホスピタリティのある接遇
 - ① ユマニチュードの浸透
 - ・月ごとに利用者や家族、職員間にて「気配り」「心遣い」「笑顔で挨拶」「目を見て話す」「傾聴」等目標を設定し、実施する。
 - ② 個別ニーズに応じた支援の提供
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
 - ① 利用者様が、日常生活の中で、その人らしく生活できるようより質の高いケアに取り組めるよう、科学的データ、介護のデータ化を重視するために科学的介護を活用し、質の高いケアの提供に努める。
2. 超強化型高稼働達成への取り組み
 - ① 加算取得の取り組み
 - ・栄養マネジメント加算、リハビリテーションマネジメント計画提出料の取得に向けての協力体制。
 - ・所定疾患施設療養費加算の取得に向けて、職員の知識向上
 - ・口腔衛生加算の取り組み
 - ・褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算、自立支援促進加算の取得

令和4年度 事業計画書

事業所名	老健4階	記入者職氏名	井上 初代
------	------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ・ 超強化型高稼働予算達成への取り組み
- ・ ホスピタリティのある接遇
- ・ 科学的介護の推進
- ・ 新機序業の早期経営安定化
- ・ 人材定着・育成
- ・ B C P
- ・ 経費節減

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

【超強化型高稼働予算達成への取り組み】

- ・ 加算へ向けての取り組み

①栄養マネジメント加算、②口腔衛生管理加算、③褥瘡マネジメント加算、④排泄支援加算、⑤自立支援推進加算取得に向け、老健4階で担当職員を決め、部署でチームを設立して、取りこぼしの無いように努める。

【ホスピタリティのある接遇】

- ・ マンチュード浸透（4つの柱×3ヶ月PDCA）
- ・ 月目標を設定
- ・ 個人目標設定
- ・ 利用者アンケート実施

【科学的介護の推進】

- ・ リハ職リードでフィードバック内容を共有し活用方法を検討

【新機序業の早期経営安定化】

- ・ シェモア、看多機への利用推進
- ・ 事業所間の情報共有

【人材定着・育成】

- ・ 職員間でのホスピタリティ、言葉使いの改善（馴れ合い禁止）
- ・ やりがい指標作戦

【BCP】

- ・ 業務マニュアルの定期的見直し
- ・ 物品、薬品管理

【経費節減】

- ・ 水道光熱費、消耗品など

令和3年度 事業計画書

部署	ソーシャルコンシェルジュ	記入者職氏名	川口 欽市
----	--------------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. 恒和会の今年度の重点目標として、法人の理念である「真心、誠実、融和」を基に尊厳を重視し質の高い福祉サービスを提供するとともに、「心ある施設、心の通うゆうわ苑」真のホスピタリティのある施設に成長させるため、品格あるサービスの提供および働きやすい職場を実現し、雇用の安定・人材育成を図る。
2. SDGsに基づく持続可能な社会をつくるための17の目標のうち「3. すべての人に健康と福祉を」「11. 住み続けられるまちづくりを」の2項目を重点的に取り組む。
3. 結果に基づく自立支援介護に努める。
4. コロナ禍での家族会の構築と共に、ご家族の皆様が末永く幸せに、安心して過ごしていただけるように、ご家族とゆうわ苑職員の二人三脚で、最期まで支え続ける仕組みを構築する。
5. 「生活介護」における障がい者と高齢者との一体的サービスの提供と障がい者の方々への就労支援への取り組みを行い、地域共生社会の実現に取り組むとともに、近隣の障がい者施設との連携を進める。
6. 2021年度介護保険制度改正・介護報酬改定に基づき、管理会計を作成、管理を行い、財務の安定化に努める。
7. IT、センサー等による業務等の省力化を継続して進める。
8. 新規事業の取組みとして看護小規模多機能型居宅介護事業、住宅型有料老人ホーム、コミュニティカフェの開設、運営。

II. 部門目標

1. 収入目標の達成
2. コロナ禍における家族支援の在り方を考え実践し、ご家族との二人三脚での利用者支援方法を構築する
3. 新規事業利用者の確保
4. 働きやすい職場環境の整備

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 収入目標の達成
 - ①在宅復帰在宅療養支援加算Ⅱの継続算定を行う為、指標が毎月70点を超えるように月6件の在宅復帰を継続して実施する。
 - ②新規の加算算定へ取り組みを実施。各加算に責任者をつけて算定を現実化する
 - ③相談員の相談業務時間の確保の実施。受診送迎対応、ショートステイ送迎、看護対応の削減
 - ④関係医療機関、居宅への広報活動を月1回、空き情報のお知らせを週1回継続して行う。
2. コロナ禍における家族支援の在り方を考え実践し、ご家族との二人三脚での利用者支援方法を構築する
 - ①コロナ感染予防に留意した面会方法や、面談方法、カンファレンスの方法、在宅復帰に向けた外出支援などの方法を構築する。
 - ②①に基づき、家族支援を行い、家族の意識を「常時施設での生活」から「在宅での生活（必要に応じて施設の利用）」へと変化させる。
 - ③利用者の在宅復帰件数を増やす。
3. 新規事業利用者の確保
 - ①老健としての広報活動の際に、新規事業対象者となる利用者確保のための広報活動も行う。
 - ②新規上の利用希望者はいらっしゃれば、新規事業開始までの間のサービス調整を図り、必要に応じて老健入所を進めていく。
 - ③既存の入所者、特に新規事業のコンセプトに合う入所者に対して、事業の説明を行い、在宅復帰を目指す。
4. 働きやすい職場環境の整備
 - ①有給休暇取得を促し、全職員年間10日以上の有給取得を行う。
 - ②部署内での毎朝夕のミーティング、定期的な上司と部下の面談を通し、悩みや課題の共有、フォローを早期に行う。
5. 経費節減
 - ①エアコンの増設を加味しながら、最適なデマンド値の設定を行う。エアコンの使用について、厨房の業務も含めて、建物全体で電力の消費をコントロールする。
 - ②古くなっている電化製品も多く、蛍光灯も含めて、ランニングコストと買い替え代金のシュミレーションを行う。
6. 事故ヒヤリハットの削減
 - ①入所時のリスク評価をより有効的にするため、カンファレンスでの情報共有を行う。定期的な評価、事故発生時の評価と対応をマニュアル化する。

令和4年度 事業計画書

事業所名	タリア	記入者職氏名	西依 憲一
------	-----	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 地域のための施設づくり
2. 総合事業の啓発活動の実施
3. IT導入推進により効率化と魅力を伝える
4. 通所リハビリとのスペース問題解決

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

コロナ感染状況により計画は延期、中止することが考えられます

1. 地域のための施設づくり

- ① にぎわいレストランやカフェタリア、地域支えあい大学の他、地域の皆様に集いの場を提供する
- ② オレンジカフェ月一回開催
(認知症のある方やご家族の相談・情報交換のできる場所を提供する)

2. 総合事業の啓発活動の実施

- ① 各通所サービス及びタリアと連携した利用者の移行や卒業を確立する
- ② オレンジカフェや地域施設での情報の発信
(介護予防・日常生活支援総合事業サービスのサービス内容を認識してもらう)
- ③ かかりつけ医への情報報告書提出の継続・営業の実施

3. IT導入推進により効率化と魅力を伝える

- ① ホームページ、インターネットを利用した情報発信
- ② IT導入で常に新しい情報を伝える
(トレーニング方法やキネシスの利用方法など)
- ③ ウェルネスシステムキーを活用
(トレーニングプログラムや結果をデータ化し管理する)

令和4年度 事業計画書

事業所名	通所リハビリセンターゆうわ	記入者職氏名	田房 利一
------	---------------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ① 収入目標を達成する
- ② 利用者さま、ご家族さまの立場に立ち、ホスピタリティ溢れる支援を行う
- ③ 科学的介護を通して質の高いケアに取り組む

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

- ① 収入目標を達成する
 - ・ 営業ツールの作成変更を行いながら、毎月の営業活動を継続する
 - ・ クレーム、事故をゼロに近づける
 - ・ お休みに対しての振り替え提案を積極的に行う
 - ・ 長期利用休止者や入院者へは確実にフォローを行う
 - ・ 中重度以上の方や医療依存度の高い方の受け入れ
 - ・ 上位加算や未取得加算の算定
 - ・ 経費削減、省エネへの取り組みへの意識づけ
 - ・ コロナ対策の徹底
- ② 利用者さま、ご家族さまの立場に立ち、ホスピタリティ溢れる支援を行う
 - ・ 「真心」「誠実」「融和」の理念に基づく接遇を心がける
 - ・ ご家族様やケアマネジャー等へは、小さなことでも細目に連絡を入れるようにする
 - ・ 「有難うございます」「させていただきます」の気持ちを持って接遇にあたる
 - ・ 営業開始から終了まで笑顔での接遇を心がけて接する
 - ・ スタッフ間同士に関してもホスピタリティのある関わりを行う
- ③ 科学的介護を通して質の高いケアに取り組む
 - ・ LIFE を活用し、科学的介護推進連携加算の算定が引き続き行えるようにする
 - ・ タブレットを使用し業務効率の向上を図り経費削減をする
 - ・ 科学的データ、介護のデータ化を重視するために科学的介護を活用し、質の高いケアの提供に努める

令和4年度 事業計画書

事業所名	訪問リハビリ	記入者職氏名	西依 憲一
------	--------	--------	-------

I. 法人事業目標

<ol style="list-style-type: none">1. ホスピタリティある接遇2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む3. 新規事業の早期経営安定化4. サービスの担い手である人材の確保と育成5. 事業継続計画（BCP）の策定6. 安定した財務基盤の確立7. 社会貢献への取り組み8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

<ol style="list-style-type: none">1. ホスピタリティのある訪問サービスの実践2. 科学的介護を通してエビデンスとアウトカムの立証3. 柳井圏域に訪問リハビリサービスを浸透させる
--

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

<ol style="list-style-type: none">1. ホスピタリティのある訪問サービスの実践<ul style="list-style-type: none">・定期的に訪問サービスの留意点、接遇教育を実施（回／3か月）・訪問サービス事業所と情報交換（苦情提言など定期的に）2. 科学的介護を通してエビデンス（根拠）とアウトカム（成果）の立証<ul style="list-style-type: none">・生活環境を重視し出来る能力を見出し自立支援を目指す・エビデンスとアウトカムを分かり易く説明する手法を検討3. 柳井圏域に訪問リハビリサービスを浸透させる<ul style="list-style-type: none">・チラシ作成、アピールポイントの整理・ケアマネ連絡協議会、民生委員集会などで広報活動・まずは結果を残しアピールし、セラピスト増員が見込めるまで数字を伸ばす

令和4年度 事業計画書

事業所名	デイサービス	記入者職氏名	富川 昌哉
------	--------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ① 自立支援型介護の徹底
- ② 営業時間の確保に努める
- ③ 科学的介護を通して質の高いケアに取り組む
- ④ ホスピタリティある接遇を提供する
- ⑤ 人材育成・職員の質の向上のために

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

- ① 自立支援型介護の徹底

お世話型介護である従来の介護方法より自立支援が促進できるような働きかけを行う、職員間の認識を変えるため毎日のミーティングで意識統一・意見のすり合わせを行う

 - ・2週間に一度の頻度で利用者様懇談会を引き続き継続し、ご利用者様自身にサービス改善に関わって頂く。また会を重ねることにより自立支援についても理解を深めて頂く。
- ② 営業時間の確保に努める
 - ・居宅介護支援事業所へ月1回以上営業訪問。その際のニーズ調査により、絶えずニーズに即したサービスを提供できる体制をとり、新規利用者獲得につなげる。
 - ・デイ独自の広報誌・パンフレットを製作、毎月更新する。それを持参し営業を行う
- ③ 科学的介護を通して質の高いケアに取り組む
 - ・LIFEを活用し、科学的介護推進連携加算の算定が引き続き行えるようにする
 - ・タブレットを使用し業務効率の向上を図り経費削減をする
- ④ ホスピタリティある接遇を提供する
 - ・毎日の朝礼にて理念・四訓を唱和し念頭に置いて業務に取り組めるようにする
 - ・業務中職員は「笑顔」を心掛け、ハラスメントに留意し、お互いに思いやりを持った言動で接する。
 - ・トラブルやストレスの早期発見の為に、最低1月に1回の頻度で個別面談を行い。不安や不満をため込まないように配慮をする。
 - ・目につく対応や言動についてはその場で指摘し合えるようにスタッフ間での信頼関係を構築する
- ⑤ 人材育成・職員の質の向上のために
 - ・施設内研修参加の必修化
 - ・無資格者へは実務者研修など苑内で受講できるものを勧め、最終的には介護福祉士の資格を取得して頂けるように働きかけを行う（サービス提供加算の上位加算にもつながる）
 - ・各サービスごとに総点検を実施し、マンネリ化を防ぐことにより質の良いサービス提供をする

令和4年度 事業計画書

事業所名	ケアハウス	記入者職氏名	五味 賢一郎
------	-------	--------	--------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ① ホスピタリティある接遇…ユマニチュードを活用ながら「笑顔で挨拶」「目を見て話す」「傾聴」に特化した接遇面の強化に取り組む。
- ② LIFE を活用しながら情報収集及び情報分析の合理化を推進して利用者様各々に応じたケアの実践へと繋げる。特に ADL 維持等加算を利用し、入居者様について、お世話型の支援から、自立支援型の支援への転換を図る。
- ③ 魅力ある職場となるよう職場環境の改善を図り、新規入職者のフォローアップ体制を確立して人材確保及び人材定着へと繋げる。
- ④ リスクマネジメントの観点から利用者の安心・安全を守る為、感染症対策や防災マニュアル・緊急時マニュアル、事業継続計画の見直しを行う。

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

法人目標・部門目標を達成させていくために、

- ① ユマニチュードチェック表及び自己研修チェックシートを活用しながら接遇・利用者対応に関わる技術の向上を目指し個々のレベルアップへと繋げていく。
- ② 通常業務としてリハビリ体操・口腔体操の実施及び定着化とご利用者様を飽きさせないよう、様々なリハビリメニューを取り入れ、個別リハビリの充実に取り組む。これにより、ご利用者様の ADL の維持・回復に努め長期的に入所を継続していただけるように支援する。
- ③ 両主任がより一層連携を密にして、職員が抱える諸問題の解決に取り組む。問題に対してのフィードバック面接が即座に行えるような勤務体制を遵守する。
- ④ 定例ミーティングを実施する中で、リスクマネジメントに関わる各種マニュアルの確認や更新を随時行いながら、それに関する知識や技術の情報共有を行う。

※月に1回のミーティング及び個別ケアカンファレンスを実施し、職員間のコミュニケーションの活性化を推進する。

またご利用者様・ご家族様が抱える問題等をリアルタイムで協議して、ケアの指針を決定し業務マニュアルにも落とし込んでいく。これらを進めていく中で「相手をよく理解する」ということに取り組み、自分本位の携わり方を進めるのではなく、相手本位の立場が理解でき行動できる職員育成を実施しホスピタリティのある接遇に取り組んでいきます。

令和4年度 事業計画書

事業所名	住宅型有料老人ホーム マ・メゾン	記入者職氏名	チーフ 原 貴史
------	------------------	--------	----------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. ホスピタリティある接遇を遵守し、最高のおもてなしを実現する
2. 業務区分の明確化
3. 定期巡回・TC等と連携強化し、体調管理に努め、長期入院を防ぐ
4. 業務負担軽減の為、ICTの活用を促進する
5. 新規事業への取り組み

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. ホスピタリティある接遇を遵守し、最高のおもてなしを実現する
 - 1-1 毎朝朝礼を行い、理念・四訓の唱和を行う
 - 1-2 基本的姿勢である語先後礼の徹底
 - 1-3 レベル評価表を用いた自己評価及びフィードバックを行う
2. 業務区分の明確化
 - 2-1 有料職員と定期巡回職員との業務区分の明確化
 - 2-2 視覚的に分かるようエプロンの着用の徹底を図る
 - 2-3 有料職員の業務マニュアルの見直し
3. 定期巡回・TC等と連携強化し、体調管理に努め、長期入院を防ぐ
 - 3-1 定期受診時に訪看等からの情報提供を病院に提供する
 - 3-2 体調変化時、訪看へ早期の報告
4. 業務負担軽減の為、ICTの活用を促進する
 - 4-1 家族への連絡方法の検討（Lineやメール等を活用）
 - 4-2 受診時の結果報告方法の確立
 - 4-3 他部署との情報共有システムの確立（Slack・Lineworks等）
5. 新規事業への取り組み
 - 5-1 シェモアとの差別化を図ると共に、シェモアとの連携方法模索
 - 5-2 効率的な運営方法の早期確立
 - 5-3 待機者確保への取り組みの為、居宅へ定期的な営業を行う（月1回以上）

令和4年度 事業計画書

事業所名	グループホーム	記入者職氏名	中元 勝洋
------	---------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ① コロナ過の中でも地域とのつながりを考え、関係を継続させる。
- ② ホスピタリティのある接遇。
- ③ 自立支援に努める。
- ④ 家族支援・家族との関りの強化に努める。
- ⑤ 働きやすい職場環境を整え、人材の定着を図る。

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

- 法人・部門目標を達成させていくために、
- ① コロナ過の中でも地域とのつながりを考え、関係を継続させる。
 - ・地域行事の開催などの情報取得に努め、入居者・職員が参加できる機会を逃さないようにする。また、感染対策などの条件に対して、参加可能かどうかをあらかじめシミュレートしておく。
 - ・コロナ過であっても入居者が地域とのかかわりを持てることはないか、部署内で考え実行する。
 - ② ホスピタリティのある接遇。
 - ・ホスピタリティの概念を全職員が把握し、自身の接遇に反映させるよう努める。
 - ・ミーティング等の機会を利用し、職員の意識共有・技術共有を行える機会を作る。
 - ・「ご家族が見て安心して頂ける接遇」を目標とする。
 - ③ 自立支援に努める。
 - ・身体機能の維持・向上に主観を置いたサービスの提供を行う。
 - ・科学的介護情報のフィードバックを職員で共有し、PDCA サイクルの確立を目指す。
 - ・「家事」などの日常の活動を継続して行って頂けるように、レクリエーションや日常生活を通じて入居者の様々な「意欲」の向上を目指す。
 - ④ 家族支援・家族との関りの強化に努める。
 - ・コロナ過による面会の制限など入居者とご家族が直接かかわる機会が減少している中ではあるが、毎月の入居者の情報や写真などの送付を行い、定期的な情報の共有を欠かさないようにする。
 - ・電話での会話、web 面会などの希望に対して速やかに対応できるよう、職員が手順などを把握しておく。
 - ・書類の返却など少ないながらもご家族が来苑する機会がある為、その際にはご家族からの要望などが無いかなど尋ねるなどの会話を欠かさないようにすることで、職員と家族との関係の継続・向上を図る。
 - ⑤ 働きやすい職場環境を整え、人材の定着を図る。
 - ・有給休暇の取得などが行いやすい、時間外勤務が出来るだけ起らない勤務体制の作成に努める。
 - ・定期的なミーティングの開催など情報共有の機会を設け、職員同士の連携を行いやすい環境づくりに努める。

令和4年度 事業計画書

事業所名	小規模多機能居宅介護トータルケア	記入者職氏名	正川 康文
------	------------------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ① 対前年数字のクリアを意識し、上期中には登録者数27名を達成させていきます。
- ② 2ヶ月(4~5月期)(6~7月期)毎に目標管理シートの確認と、レベル評価を実施し、できていること(強み)と、できていないこと(弱み)を見つけ課題を見つけ改善していく仕組みづくり。
- ③ 職員全員が科学的介護の活用方法を理解に努め、基本的なデータ入力等の作業はできるように取り組む。

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

法人・部門目標を達成させていくために、

- ① 対前年数字のクリアを意識し、上期(4~8月期)中には登録者数27名の達成を実施します。
その為には、常に対前年数字を意識しクリアさせていくようにします。
登録者27名の達成に向けては、月に1~2回は居宅介護事業所や、医療センター・周東病院等を訪問し営業活動を実施します。
取入面に於いては安定させ、持続可能的に継続させていくことができるようにする。
- ② 2ヶ月(4~5月期)(6~7月期)毎に目標管理シートの確認と、レベル評価を実施し、「できていること(強み)」と、「できていないこと(弱み)」を見つけ、新たな課題を見つけ、常に改善、改善と取り組む仕組みをつくり「より良い携わり方」ホスピタリティのある接遇を実施します。

その為には、週に3~4回TCミーティングを実施し、職員間のコミュニケーションの活性化と、ご利用者様・ご家族様、職員等の相手の立場に立ち考え「相手をよく理解する」ということに取り組み、自分本位の携わり方を進めるのではなく、相手本位の立場が理解でき行動できる職員育成を実施しホスピタリティのある接遇に取り組んでいきます。
- ③ 職員全員が科学的介護の活用方法を理解に努め、基本的なデータ入力等の作業はできるように取り組む。

各職員がフィールドバック情報には必ず目を通し、どの様に携われれば良いのかを理解し日々研鑽に努めるような仕組みを作り実施できるようにする。

令和4年度 事業計画書

事業所名	看護小規模多機能型居宅介護	記入者職氏名	守友弘美
------	---------------	--------	------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. ホスピタリティある接遇に取り組み利用者やご家族に誠実なサービス提供
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 早期経営安定化と安定した財務基盤の確立
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 社会貢献への取り組み

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. ホスピタリティある接遇に取り組み利用者やご家族に誠実なサービス提供
 - ① サンリンクを利用しているご家族の意見・思いを聞き自分たちのケアの学びにする
 - ② 訪問時、送迎時のあいさつ接遇を徹底し利用と家族の信頼関係を作る。
 - ③ 職員研修を実施（計画実施評価）
 - ④ 法人の接遇マニュアルをもとに自己研鑽と他者評価をしていく仕組みづくり。
 - ⑤ 医療依存度の高い利用者の生活継続のための介護スタッフとの訪問同行
 - ⑥ 終末期のケアを確立し、在宅生活のサポート
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
 - ①利用者のアセスメントやモニタリングを計画的に実施し利用者に対して適切なサービス提供
 - ②ケアマネジャーとの情報共有と意見交換するとともに、作成されたプランの順守と変更の提案。
 - ③臨機応変なサービスの提供に取り組めるよう日々のサービスを充実させる
 - ④IT化の確立：タブレット 業務用携帯、眠りスキャンなどの活用
- 3 早期経営安定化と安定した財務基盤の確立
 - ① 保険制度を理解し、加算や実績漏れを防ぐための知識を得る。
 - ② 法人内のライブバス会議などで活発に意見交換と情報共有し安定的な利用者の獲得。
 - ③ 登録者を毎月計画的に3名ずつ増やしていき目標28名
 - ④ サンリンク内の事業所のスタッフが経営意識を持つように定期的に情報伝達ができる体制と時期を確立する。
 - ⑤ 人件費や光熱費などの経費削減のための対策
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
 - ① 離職防止のために毎月ミーティングで個々の思いを聞き、働きやすい環境づくり
 - ② 健康管理のための有給休暇取得・リフレッシュ休暇の促進
 - ③ コミュニケーションがとりやすい上司部下の人間関係の確立
 - ④ お互いに助け合える環境づくり
5. 事業継続計画（BCP）の策定
 - ① 地域住民の相談窓口の充実
 - ② 疾病や障害に対する理解のための学習会の実施
 - ③ 災害時に協力し合える組織、ネットワークづくり
 - ④ 感染対策防止のための事業所内のマニュアル作成と順守
6. 社会貢献への取り組み
 - ①既存事業における主治医との連携を強化し、定例的な情報提供を確立する。（ITの活用など）
 - ②地域における在宅生活の限界点を向上させるために関係機関との連携（サンリンクの定期的な発送便など）

令和4年度 事業計画書

事業所名	住宅型有料老人ホーム シェモア	記入者職氏名	チーフ 原 貴史
------	-----------------	--------	----------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. ホスピタリティある接遇を遵守し、最高のおもてなしを実現する
2. 業務区分の明確化
3. 定期巡回・看多機と連携強化し、体調管理に努め、長期入院を防ぐ
4. 業務負担軽減の為、ICTの活用を促進する
5. 新規事業への取り組み

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. ホスピタリティある接遇を遵守し、最高のおもてなしを実現する
 - 1-1 毎朝朝礼を行い、理念・四訓の唱和を行う
 - 1-2 基本的姿勢である語先後礼の徹底
 - 1-3 レベル評価表を用いた自己評価及びフィードバックを行う
2. 業務区分の明確化
 - 2-1 有料職員と他職員との業務区分の明確化
 - 2-2 視覚的に分かるようエプロンの着用の徹底を図る
 - 2-3 有料職員の業務マニュアルの見直し
3. 定期巡回・看多機と連携強化し、体調管理に努め、長期入院を防ぐ
 - 3-1 定期受診時に訪看等からの情報提供を病院に提供する
 - 3-2 体調変化時、訪看へ早期の報告
4. 業務負担軽減の為、ICTの活用を促進する
 - 4-1 家族への連絡方法の検討（Line やメール等を活用）
 - 4-2 受診時の結果報告方法の確立
 - 4-3 他部署との情報共有システムの確立（Slack・Lineworks等）
5. 新規事業への取り組み
 - 5-1 居宅・病院へ定期的な営業を行う（月1回以上）
 - 5-2 効率的な運営方法の早期確立
 - 5-3 重症度者に対するケアの心理的・身体的負担把握のため、定期的な面接を行う（2ヵ月/1回）

令和4年度 事業計画書

事業所名	定期巡回ユースアンド24 ゆうわ	記入者職氏名	チーフ 原 貴史
------	------------------	--------	----------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 登録者月平均 50 人を目指す
2. 看取りが可能となる体制作り
3. 新規事業への取り組み
4. ICT の活用方法
5. 加算取得

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 登録者増への取り組み
 - 1-1 ケアプランセンターとの連携（2件/月の紹介）
 - 1-2 各居宅・医療機関への継続的な広報活動（月1回以上訪問）
 - 1-3 訪問看護との連携をアピール
 - 1-4 民協等で地域への方への広報活動を行う（1回/2ヵ月）
2. 看取りへの体制強化
 - 2-1 訪問看護との更なる連携強化を図る
 - 2-2 月1回以上の勉強会を開催（訪看と合同）
 - 2-3 ターミナルケア加算取得への取り組み
 - 2-4 オンコール体制に頼ることなく夜勤を行う事が出来るよう、医療的知識の向上を図る
3. 新規事業への取り組み
 - 3-1 円滑な訪問スケジュールの構築
 - 3-2 メゾン・シェモア・地域と3展開になる為、記録システムなどを用いた情報共有の徹底
 - 3-3 定期的なミーティングを開催（月1回以上）
 - 3-4 訪問スケジュール見直しを行い、効率的な運営方法の構築を図る（1回/2週間）
 - 3-5 運営方法確立（TCとの連携）
4. ICT の活用
 - 4-1 家族への連絡方法の検討（Line やメール等を活用）
 - 4-2 受診時の結果報告方法の確立
 - 4-3 他部署との情報共有システムの確立（Slack・Lineworks等）
5. サービス体制強化加算の早期取得への取り組み
 - 5-1 取得へ必要な項目・届け出等の確認
 - 5-2 個々の研修計画案作成

令和4年度 事業計画書

事業所名	訪問看護ステーション	記入者職氏名	守友弘美
------	------------	--------	------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 「真心・誠実・融和」をもとに誠実な看護・品格のある看護を提供する。
2. 質の高い看護を目指し地域の信頼を得る。
3. 人材の確保と育成
4. 事業継続計画（BCP）の策定
5. 利用者の獲得と安定した事業所運営を目指し看護小規模多機能の運営の基盤を作る

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 「真心・誠実・融和」をもとに誠実な看護を提供する。
 - ①24時間切れ目のないサービス提供のため利用者の安全安心な生活を支える。
 - ②地域の医療機関及び関連諸機関との連携と情報共有
 - ③家族のレスパイト・生活全般の支援を実施し個別のニーズに合わせたサービスの提供をする。
 - ④ホスピタリティを大切に接遇に努め自分の家族にしてほしいと思うようなケアを提供する。
 - ⑤時間や件数に迫られる業務をするのではなく、訪問時にはきちんと必要なケアを家族とともに行う。（家族指導）
2. 質の高い看護を目指し地域の信頼を得る。
 - ①介護職・看護師の研修を計画、実施評価し教育体制の基盤を作る。
 - ②看護計画の内容は家族の思いを必ず加えて表現し、報告書と計画書に反映する。
 - ③ターミナルケアの内容を充実し、グリーフケアに結び付ける。（ご家族の思いを聞く日程も追加）
 - ④新しい訪問では同行する日を2回にして、確実にケアの引継ぎができるようにスケジュール作成。
 - ⑤多職種・他機関との連携を取りサービス担当者会議などの出席し情報共通と提案をする。
3. 人材の確保と育成・職員の定着
 - ①自己研鑽につながる研修参加を進める。
 - ②教育研修；看護師と介護職に行い同行訪問で医療ケアの充実
 - ③eラーニング活用・通信研修を計画して実施する。
 - ④働きやすい職場をつくるため月1回のミーティングで個々の思いや業務改善と有給休暇取得
 - ⑤困っているときには助け合いや言葉がけができる風土づくり
4. 事業継続計画（BCP）の策定
 - ①緊急時・災害時マニュアルの作成と地域と協力して協力しあえる体制の構築
 - ②訪問の感染対策を実施し、コロナ感染防止を継続。
5. 看護小規模多機能型居宅事業所の運営の基盤を作る。
 - ①利用者の獲得と安定した事業所運営のため、1日一人8件訪問、加算漏れ防止、レセプト業務をダブルチェック体制を作る。
 - ②医療保険利用者の獲得を目指す。
 - ③医療機関・関係機関との連携と広報活動（定期的にお知らせ発行）

令和4年度 事業計画書

事業所名	ケアプランセンター	記入者職氏名	主任 硯谷 香里
------	-----------	--------	----------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. ホスピタリティある接遇を心掛ける
2. 利用者満足度のサービスを提供するため、専門的技術の習得に努め、専門性の高いサービスを提供する
3. 新たな地域での社会貢献活動へ取り組み、ネットワークづくりを行う

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. ホスピタリティある接遇を心掛ける
 - 1-1 担当者だけでなく、ご家族支援も含め、思いやりのある対応を行う
 - 1-2 「気配り・心配り」を忘れず、感謝の気持ちを持ち、傾聴を行う
 - 1-3 「思いやりの心」でそれぞれの方々に合ったサービスの提供に努め、在宅生活の継続につなげていく
 - 1-4 居宅サービスで支援が難しくなった時には、必要なサービスを検討し、適切なサービスが提供できるよう、支援する
 2. 利用者満足度のサービスを提供するため、専門的技術の習得に努め、専門性の高いサービスを提供する
 - 2-1 各自の能力向上のため、研修に参加し、研鑽に努める
 - 2-2 年度内に開催される主任ケアマネ研修に2名が参加し、より高い専門性を習得し、日々のサービスに努める
 - 2-3 山口県介護支援専門員協会主催研修会で発表をし、日々を振り返るとともに、次なる支援方法についても学ぶ機会を持つ
 3. 新たな地域での社会貢献活動へ取り組み、ネットワークづくりを行う
 - 3-1 新たな施設が開設され、市中心部での事業展開を進めていく中で、相談支援業務に力を入れ、困っておられる方々に必要な社会資源を提供していく
 - 3-2 今までつながりのなかった地域の方々との絆を深め、地域への貢献活動に努める
 - 3-3 新たに設ける地域交流スペースを活用し、地域住民を対象とした講座を実施していく（コロナ蔓延状況等も考慮する必要がある）
 - 3-4 柳井市認知症地域支援推進員として、認知症支援の拠点とした窓口となり、中心部での認知症事業を展開、開拓をしていく
- 【加算算定に対する取り組み】
- ①月3件の新規利用者獲得を行う（初期加算の算定）
 - ②入院時情報連携加算：（Ⅰ）の取得を行う
 - ③退院・対処加算：該当を確認し、取得する
 - ④令和4年4月より、新たに特定事業所加算（Ⅱ）を取得する
 - ⑤通院時情報提供加算、緊急時等居宅カンファレンス加算：要件が整い次第、取得開始。準備を行う。

令和4年度 事業計画書

事業所名	ゆうわ総合在宅サポートセンター 地域交流スペース	記入者職氏名	主任 磯谷 香里
------	-----------------------------	--------	----------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 共生社会の実現を目指した総合相談機能の礎を築く
2. 看護小規模多機能型居宅介護の円滑な開設を実現する
3. 認知症事業（チームオレンジ）の拠点づくりの準備を行う
4. 本部での既存事業のうち訪問系サービスの柳井市中央部における事業展開の実現
5. 地域医療と恒和会の事業との連携強化の実現

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 共生社会の実現を目指した総合相談機能の礎を築く
 - 総合相談事業
 - ・医療機関からの退院患者の在宅生活の支援
 - ↳在宅支援に当たっては、ケアプランセンターの介護保険制度による課題解決のみでなく、制度の枠を超えた支援プランを提案並びに運用をマネジメントする
 - ・介護、福祉、障害等の制度の枠を超えた相談（漠然と不安を抱えた相談者に対し）
 - ↳課題解決に必要なサービス（制度）利用の助言、関係機関の紹介（顔末まで追うことを原則）
 - ↳相談者のうち介護保険制度の利用が適当な場合ケアプランセンターへケースを引き継ぐ
2. 地域の方々に利用してもらえる交流スペースの円滑な開設を実現する
 - 広報事業
 - ↳関係機関への情報提供（週1回関係機関訪問時）
 - ↳地域住民向け勉強会（講演会）時に広報活動
 - ↳公開介護講座の企画、開催（一般向け）時に広報活動
3. 認知症事業（チームオレンジ）の拠点づくりの準備を行う
 - 広報事業
 - ↳関係機関への定期的な情報提供（週1回の事業所訪問）
 - 事業展開 ※柳井市認知症地域支援推進員の補助金を活用
 - ↳認知症カフェの開催・介護者の集いを開催
 - 認知症サポーター養成講座の開催・認知症キッズサポーター養成講座の開催
 - 認知症について知る講座の開催
 - 認知症についての情報提供
 - 関係機関への情報提供（週1回関係機関訪問時）
4. 地域医療と恒和会の事業との連携強化の実現
 - 広報事業
 - ↳関係機関への定期的な情報提供（月1回の事業所訪問）
 - ↳外部講師を招聘しての関係機関との勉強会（講演会）の企画、開催

令和4年度 事業計画書

事業所名	カフェミューラプラン	記入者職氏名	小根森 繁夫
------	------------	--------	--------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接客
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 多様なお客様が、きちんと食事できる、おいしい料理をおもてなし心で提供する
2. ホスピタリティのある接客ができる
3. サンリンクでの厨房業務とカフェ業務が安定して行える
4. 地域の方に開かれたコミュニティースペースを作る

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 多様なお客様が、きちんと食事できる、おいしい料理をおもてなし心で提供する
 - 1) 管理栄養士監修の安心安全な食事
 - 2) グランシェフ観衆の幅広い年齢層に好まれる洋食
温かいものは温かく、冷たいものは冷たくて気温で提供する。
2. ホスピタリティのある接客ができる
 - 1) 職員同士の接客について
取り組み目標を一人ひとりが意識し、職員同士が声をかけ合って、思いやりある環境作りを心がける
 - 2) 食事の対応について
友人・知人を自宅でもてなすような暖かなサービス。
個々のお客様のニーズに合わせた臨機応変な対応。
3. 売り上げ目標を達成する
 - 1) 担当者が厨房内業務を円滑に行えるように業務の流れを作る。
 - 2) 食材ロスや無駄を最小限に抑え運営経費、料理原価に重点を置き、売り上げを確保する。
 - 3) 効率性を生かし、メニュー数の簡素化を行う。
 - 4) コンセプト、マーケティング戦略の確認し軌道に乗せる。
4. 地域の方に開かれたコミュニティースペースを作る
 - 1) 多世代・多文化の様々な人が気軽に集える場所、法人資源の発信拠点になる。
 - 2) 併設施設、法人既存事業とのシナジー効果を発揮させる。

令和4年度 事業計画書

事業所名	シンシア特養	記入者職氏名	宮本 晃輔
------	--------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ・ホスピタリティある、地域に選ばれた施設運営ができる
- ・安定した収入を得る
- ・科学的介護の推進を図る
- ・新規事業へ情報を還元する
- ・シンシア職員の質の向上を図る
- ・シンシアにおける業務持続計画の策定
- ・藤生・灘地区等のシンシア関わる地域への貢献に努める

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

【ホスピタリティある、地域に選ばれた施設運営ができる】

- ①職員1人ひとりがホスピタリティの精神を意識して業務を行う
- ②イエローカードを使用しての意識改革を継続して実施する
- ③入居者様・ご家族様に対してサービス満足度調査を年1回実施する

【安定した収入を得る】

- ①毎月の稼働率98%以上を維持する
- ②現在算定している加算を継続算定する
- ③褥瘡マネジメント加算Ⅰを4月より算定開始する
- ④配置医師緊急対応加算を4月より算定開始
- ⑤特養空床時の短期入所空床利用率50%（年間）を達成する
- ⑥認知症専門ケア加算算定の為、認知症介護実践者リーダー研修受講（西村チーフ）

【科学的介護の推進を図る】

- ①ユニットリーダー会議にてフィードバック内容を共有・活用方法を検討
- ②活用方法を現場職員へ共有し、検討した内容を実践する
- ③実践後、ユニットリーダー会議内で振り返り・再検討を実施する

【新規事業へ情報を還元する】

- ② 特養申し込みに来られた方に対して、必要に応じて新規事業所の紹介を行う
- ② ケアマネ・MSWIに対して、新規事業所の啓発を行う

【シンシア職員の質の向上を図る】

- ①シンシア独自の施設内研修を継続的に行う
- ②シンシア独自の成果発表会を年2回継続実施する
- ③看取り研修をシンシアで行う
- ④看取り時のデスカンファレンスを行い、対応した職員のメンタルケアを行う
- ⑤ユニットリーダー研修に1名（年間）受講し、新たな知識の取得・ユニットリーダーに成り得る人材の育成を行う（景岡職員）

【シンシアにおける業務持続計画の策定】

- ①感染症・災害発生時に業務持続可能にする仕組みを作る（シンシア版BCP）
- ②感染症想定訓練・PPE着脱訓練を年2回実施する

【藤生・灘地区等のシンシア関わる地域への貢献に努める】

- ①感染予防を行いながら、新しい形でのシンシアふれあい祭りを検討
- ②地域の清掃・ボランティア活動に参加する（海岸清掃・地域の清掃活動）
- ③岩国市はいかい高齢者等 SOS ネットワーク事業への参加
- ④感染症予防を行いながら、地域交流スペースを地域住民の活動の場所として提供し地域の拠点として開かれた施設を目指す
- ⑤認知症サポーター養成講座・地域の福祉活動など、介護の啓発活動にシンシア職員が継続的に参加する

令和4年度 事業計画書

事業所名	シンシア短期	記入者職氏名	宮本 晃輔
------	--------	--------	-------

I. 法人事業目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. ホスピタリティある接遇 2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む 3. 新規事業の早期経営安定化 4. サービスの担い手である人材の確保と育成 5. 事業継続計画（BCP）の策定 6. 安定した財務基盤の確立 7. 社会貢献への取り組み 8. 大規模修繕の準備と実施
--

II. 部門目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティある、地域に選ばれた施設運営ができる ・安定した収入を得る ・科学的介護の推進を図る ・新規事業へ情報を還元する ・シンシア職員の質の向上を図る ・シンシアにおける業務継続計画の策定 ・藤生・灘地区等のシンシア関わる地域への貢献に努める
--

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

<p>【ホスピタリティある、地域に選ばれた施設運営ができる】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①職員1人ひとりがホスピタリティの精神を意識して業務を行う ②イエローカードを使用しての意識改革を継続して実施する ③入居者様・ご家族様に対してサービス満足度調査を年1回実施する <p>【安定した収入を得る】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①毎月の稼働率 97%以上を維持する ②現在算定している加算を継続算定する ③特養空床時の短期入所空床利用率 50%（年間）を達成する <p>【科学的介護の推進を図る】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ユニットリーダー会議にてフィードバック内容を共有・活用方法を検討する ②活用方法を現場職員へ共有し、検討した内容を実践する ③実践後、ユニットリーダー会議内で振り返り・再検討を実施する <p>【新規事業へ情報を還元する】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①特養申し込みに来られた方に対して、必要に応じて新規所業所の紹介を行う ②ケアマネ・MSWIに対して、新規事業所の啓発を行う <p>【シンシア職員の質の向上を図る】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シンシア独自の施設内研修を継続的に行う ②シンシア独自の成果発表会を年2回継続実施する
--

- ③看取り研修をシンシアで行う
- ④看取り時のデスクカンファレンスを行い、対応した職員のメンタルケアを行う
- ⑤ユニットリーダー研修に1名（年間）受講し、新たな知識の取得・ユニットリーダーに成り得る人材の育成を行う（景岡職員）

【シンシアにおける業務持続計画の策定】

- ①感染症・災害発生時に業務持続可能にする仕組みを作る（シンシア版BCP）
- ②感染症想定訓練・PPE 着脱訓練を年2回実施する

【藤生・灘地区等のシンシア関わる地域への貢献に努める】

- ①感染予防を行いながら、新しい形でのシンシアふれあい祭りを検討
- ②地域の清掃・ボランティア活動に参加する（海岸清掃・地域の清掃活動）
- ③岩国市はいかい高齢者等 SOS ネットワーク事業への参加
- ④感染症予防を行いながら、地域交流スペースを地域住民の活動の場所として提供し地域の拠点として開かれた施設を目指す
- ⑤認知症サポーター養成講座・地域の福祉活動など、介護の啓発活動にシンシア職員が継続的に参加する

令和4年度 事業計画書

事業所名	シンシアデイサービス	記入者職氏名	浅井 英勇
------	------------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ・ホスピタリティある運営ができる
- ・稼働率 80%を継続する
- ・シンシア職員の質の向上を図る
- ・業務持続計画の策定
- ・LIFE を活用しての支援を行う

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

【ホスピタリティある、運営ができる】

- ①身だしなみ、言葉使いに注意し、利用者、家族に不快な印象を与えないようにする。
- ②接遇研修で学んだことを実践で生かし、ホスピタリティのある介護を行う。
- ③デイサービス独自の接遇研修を、年2回行いホスピタリティある介護を継続していく。

【稼働率 80%を継続する】

- ①ケアマネージャーと密に連絡・報告・相談し、信頼のあるデイサービスにする。
- ②居宅への訪問を月4回15件以上行う。
- ③居宅へのアピールとして毎月のデイ通信を作成、デイの特徴を載せ、配布する。
- ④デイ通信を家族へ配布し、近所への紹介に繋げていく。

【シンシア職員の質の向上を図る】

- ①施設内研修への参加を促し、研修報告書提出率を100%とする。
- ②資格取得のための声掛けを行っていく。
※介護福祉士受験資格者…1名 初任者研修受講者…1名
- ③加算に必要な研修への参加。
※ADL維持向上加算…4名 認知症加算研修…1名

【業務持続計画の策定】

- ①感染症・災害時の事業持続可能にする仕組みづくり

【LIFE を活用しての支援を行う】

- ①口腔・栄養スクーリング加算などに必要なデータを記入し、ほのぼので一括管理することにより、書類等の作成時間の削減。
- ②データを活用することよっての支援を行うことで、個人にあった支援を実施する。

令和4年度 事業計画書

事業所名	シンシアタリア	記入者職氏名	浅井 英勇
------	---------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ・ホスピタリティある運営ができる
- ・年度内に登録者数5人増加する
- ・シンシア職員の質の向上を図る
- ・業務持続計画の策定
- ・LIFEを活用しての支援を行う

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

【ホスピタリティある、運営ができる】

- ①利用者懇談会と並行して行うことにより、個別ニーズに応じた支援を行う。
- ②接遇研修で学んだことを実践で生かし、ホスピタリティのある介護を行う。
- ③デイサービス独自の接遇研修を、年2回行いホスピタリティある介護を継続していく。

【登録者数の増加】

- ①居宅への営業を月4回15件以上行う。
- ②居宅へのアピールとして毎月のタリア通信を作成、タリアの特徴を載せ、配布する。
- ③家族へのタリア通信を配布。タリアの特徴、利用方法などを記載し見てもらうことで、横の繋がりからの登録も目指す。

【シンシア職員の質の向上を図る】

- ①施設内研修への参加を促し、研修報告書提出率を100%とする。
- ②資格取得のための声掛けを行っていく。
※介護福祉士受験資格者…1名 初任者研修受講者…1名
- ③加算に必要な研修への参加。
※ADL維持向上加算…4名 認知症加算研修…1名

【業務持続計画の策定】

- ①感染症・災害時の事業持続可能にする仕組みづくり

【LIFEを活用しての支援を行う】

- ①口腔・栄養スクーリング加算などに必要なデータを記入し、ほのぼので一括管理することにより、書類等の作成時間の削減。
- ②データを活用することによっての支援を行うことで、個人にあった支援を実施する。

令和4年度 事業計画書

事業所名	シンシア小規模多機能居宅介護	記入者職氏名	石原 絵美
------	----------------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

- ・理念に基づいたホスピタリティのある接遇を行う
- ・科学的介護を通じて質の高いケアに取り組み、個別の自立支援サービスを提供する
- ・収入目標を達成する
- ・職員の定着と提供サービスの質の向上を図る
- ・事業継続計画（BCP）の策定
- ・社会貢献への取り組み

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 理念に基づいたホスピタリティのある接遇を行う
 - ①朝礼時の理念唱和の継続。接遇目標を定め、毎朝礼時に発表することでホスピタリティに対する意識を高めて業務に入る。
 - ②訪問、送迎前に職員同士で声を掛け合うことで、身だしなみの確認や挨拶・言葉遣いを意識し、サービス提供を行う。
 - ③定例ミーティングを活用し、個々の利用者に対する接遇の見直し、個別ニーズの情報共有を行う。
 - ④接遇に関する部署内研修を定期的実施する。
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組み、個別の自立支援サービスを提供する
 - ①LIFE の入力を実践に行う。
 - ②フィードバックを活用し個々の支援計画へ反映させる。PCDA を実行。
3. 収入目標を達成する
 - ①目標登録者数（28名）の達成と継続。解約者が出た場合の早期新規登録者獲得に努める。
 - 1）新規利用者紹介元への利用状況報告書を作成し、配布するとともに、必要に応じて電話などで迅速に報告を行う。
 - 2）シンシア居宅等、他事業所との連携を密にし、情報を定期的に共有することでスムーズな利用者の移行に備える。
 - ②取得可能な加算を取りこぼさない。
 - 1）サービス提供体制強化加算（Ⅲ）の維持
 - 2）口腔・栄養スクリーニング加算の取得
4. 職員の定着と提供サービスの質の向上を図る
 - ①定期的な個別面談時に職場環境や労働条件についての聞き取りを行い、必要に応じて見直し改善について話し合う。
 - ②人材育成の為にeラーニング活用。
 - ③専門的技術の習得並び職場内外リモート研修の充実を図る。
5. 事業継続計画（BCP）の策定
 - ①小規模多機能で実際に機能する事業継続計画（BCP）を策定し、部署内で認知を深める。
6. 社会貢献への取り組み
 - ①岩国市はいかい高齢者等 SOS ネットワーク事業への参加
 - ②感染予防を徹底し、地域との交流・活動への参加を検討する。

令和4年度 事業計画書

事業所名	シンシア居宅支援事業所	記入者職氏名	田村 直洋
------	-------------	--------	-------

I. 法人事業目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. ホスピタリティある接遇 2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む 3. 新規事業の早期経営安定化 4. サービスの担い手である人材の確保と育成 5. 事業継続計画（BCP）の策定 6. 安定した財務基盤の確立 7. 社会貢献への取り組み 8. 大規模修繕の準備と実施
--

II. 部門目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. ご利用者様、ご家族様に対しホスピタリティある接遇 2. 新規事業の早期経営安定化 3. 事業継続計画（BCP）の策定 4. 収入目標の達成 5. 社会貢献への取り組み
--

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

<p>(ホスピタリティある接遇)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①外出時や訪問時の身だしなみを双方でチェックし、相手に不快な印象を与えない ②相談時や訪問時の対応に注意し相手に好印象を与える ③ご利用者様・ご家族様とよく話し合い自立支援プランを提案する <p>(新規事業の早期経営安定化)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①担当利用者様より希望があった場合、シンシアの事業所を紹介し収益に貢献する ②岩国市包括と連携を取り、情報収集する <p>(サービスの担い手である人材の確保と育成)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①苑内研修・苑外研修に参加しスキルアップする ②他居宅との連携を密にする <p>(収入目標達成のために)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談があったケースは断らず、シンシア居宅で積極的に担当する ②入院時情報連携加算 I (200 単位) を取りこぼし無く算定する ③通院時情報連携加算 (50 単位) の算定要件を理解する <p>(BCP 業務持続可能計画を策定)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①感染症・災害時の事業持続可能にする仕組みづくり <p>(社会貢献への取り組み)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 岩国市徘徊高齢者ネットワーク事業への参加
--

令和4年度 事業計画書

事業所名	栄養管理課	記入者職氏名	中尾 千代子
------	-------	--------	--------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. ホスピタリティのある接遇ができる
2. 栄養に関わる加算の算定ができる
3. サンリンクでの厨房業務とカフェ業務が安定して行える
4. 栄養管理課におけるBCPが作成できる

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. おもてなしの心を持った対応が行える
 - 1) 職員同士の接遇について

取り組み目標を一人ひとりが意識し、職員同士が声をかけ合って、思いやりある環境作りを心がける
 - 2) 食事の対応について

ご利用者様へのアンケート調査によるニーズの把握と、調理部門での試作と定期ミーティングで試食・意見交換を行い、喜ばれる食事を提案して取り入れていく。
2. 栄養に関わる加算の算定ができる
 - 1) 基本サービスにおける栄養マネジメントを確実に行う。
 - 2) 栄養マネジメント強化加算の算定のため、管理栄養士の業務内容と体制を整える。
 - 3) 療養食加算、経口維持加算は、対象者を選定して必要な方に対応をし、算定を行う。
3. サンリンクでの厨房業務とカフェ業務が安定して行える
 - 1) 担当者が厨房内業務を円滑に行えるように業務の流れを作る。
4. 栄養管理課におけるBCPを作成する
 - 1) 感染症や台風災害など毎年起こりうる事象に対応できるよう、優先業務表と応援体制の見直しを行う
 - 2) お弁当外注時に迅速に対応できるよう、3部署の食形態や食数などの連絡体制を整える
 - 3) 配食サービス利用者への食事手配方法等の対応を整備する
 - 4) 備蓄品リスト（食品・物品・容器）の定期的な見直しと必要数を確保する

令和4年度 事業計画書

事業所名	地域包括支援センター南部支所	記入者職氏名	石本 優太
------	----------------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部門目標

1. 本所や法人との連携を図りながら、地域住民が住み慣れた地域での生活が継続できるよう地域包括の業務を遂行していく。
2. 地域の特性に応じた包括的支援事業及び介護予防支援が実施できるよう、各関係機関との連携強化を図っていく。

III. 事業計画 ※法人目標、部門目標を達成するための具体的計画

1. 本所や法人との連携を図りながら、地域住民が住み慣れた地域での生活が継続できるよう地域包括の業務を遂行していく。
 - ①本所との報告・連絡・相談を随時行い、適切な包括的支援業務、指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントを遂行する。
 - ②各支部との連携をより強化し、情報共有を目的とした支部会に月1回出席する。
 - ③時間外や超過勤務は基本的にはないような業務の見直しや改善を検討していき、実施する。
 - ④法人居宅と連携し、介護予防支援利用者の計画担当数について調整を図り、必要に応じて協力していく。
2. 地域の特性に応じた包括的支援事業及び介護予防支援が実施できるよう、各関係機関との連携強化を図っていく。
 - ①本所や関係機関が実施する、円滑な相談体制確保の為の研修やネットワーク作り等への協力、参加を行う。
 - ②日常生活圏域における民生委員協議会（阿月、伊保庄）へ月1回出席する。
 - ③市（高齢者支援課及び社会課）や地域の医療機関、介護（介護予防）サービス事業所や民生委員等と協力しながら、総合相談支援業務を遂行する。

令和4年度 部活動計画書

部活動名	eスポーツ部	記入者職氏名	笠本 典男
------	--------	--------	-------

I. 法人事業目標

1. ホスピタリティある接遇
2. 科学的介護を通じて質の高いケアに取り組む
3. 新規事業の早期経営安定化
4. サービスの担い手である人材の確保と育成
5. 事業継続計画（BCP）の策定
6. 安定した財務基盤の確立
7. 社会貢献への取り組み
8. 大規模修繕の準備と実施

II. 部活動目標

1. 部活動を通して職員同士・地域との交流を持つ事、業務以外での活動の場を設ける事により、働きやすい職場・人間関係づくりを推進する。
2. eスポーツという活動により、興味を持つ若い世代・新規職員獲得へのアプローチの一つとする
3. 部として苑行事に参加する事・または行事を企画する事で、ゆうわ苑を今までとは違った新しい側面から盛り上げていく。
4. ネット上での活動も視野にいれ、活動の場を広げていく

III. 部活動計画 ※法人目標、部活動目標を達成するための具体的計画

- ①. 部活動を通して職員同士・地域との交流を持つ事、業務以外での活動の場を設ける事により、働きやすい職場・人間関係づくりを推進する。
 - 1-1. 週1回、苑外からの希望者も参加可能なeスポーツの練習・交流会を行う。
 - 1-2. 地域でのeスポーツ大会に参加・協力し、山口県を盛り上げる（柳井グランドホテルのeスポーツ事業と協力：会場を借りての月1対戦交流会等の企画）
- ②. eスポーツという活動により、興味を持つ若い世代・新規職員獲得へのアプローチの一つとする
 - 2-1. 求人関連チームと協力し、情報を発信していく事により若い世代へのアピールを行っていき、新規職員獲得に繋げる
- ③. 部として苑行事に参加する事・または行事を企画する事で、ゆうわ苑を今までとは違った新しい側面から盛り上げていく。
 - 3-1. 新入職員歓迎会、暑気払い、忘年会等の行事内でのイベントの企画
 - 3-2. 地域を対象にした苑外参加可能なeスポーツ大会の企画
- ④. ネット上での活動も視野にいれ、活動の場を広げている
 - 4-1. 活動の様子（音声、ゲーム画面）をYouTubeにてライブ配信する事によって、ゆうわ苑にeスポーツ部がある事の周知を行い、求人等に役立つ。
 - 4-2. Twitter アカウントを開設し、活動の告知等の宣伝を行っていく。